

生命のまなざし—日本画の中の動物たち

会 期 2003年6月28日(土)～8月17日(日)

人と動物の関わりは古く、生活を助ける力として、あるいはともに暮らすパートナーとして歩んできました。馬は家畜の中でも主要な動物として耕作や交通運搬に力を発揮し、野生動物であった犬が人と暮らすようになったのは一万二千年前といわれています。人間にとって動物は身近な存在であったことから、絵画や彫刻の題材に取り上げられ、多くの作品が残されています。

日本画には中国から伝わった「花鳥画」というジャンルがあり、南北朝時代から花卉と鳥や獣を組み合わせで描いてきました。四季の花と鳥で季節を表現し、愛玩動物を丹念に描いた作品には、小さな生命に寄せる画家の温かな想いをみることができます。また、仏画に登場する動物も多く、涅槃図では入滅した釈迦の周囲を取り巻く仏弟子の他に、さまざまな動物が描かれています。

本展では、このように日本画に描かれた動物をとおして、人と動物の深い関係や、画家がとらえた生命の輝きをご紹介します。さまざまな動物表現をお楽しみください。

会 場 高崎市タワー美術館 (370-0841 高崎市栄町 3-23 電話 027-330-3773)

時 間 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)

金曜日のみ午前10時～午後8時 (入館は午後7時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館、翌日を休館)

会期中の休館日：6/30、7/7・14・22・28、8/4・11

観 覧 料 一般：500円 (400円)、大高生：300円 (250円)、中小生：200円 (150円)

- ()内は20名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
- 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

後 援 朝日新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

企 画 協 力 山種グループ

関連事業

- 記念講演会「自然との共生の中で」 日本画家・上村淳之 7/5 13:00～
- ギャラリートーク 6/28、7/19、8/2、8/16 14:00～